

② 青葉の森公園 自然景観と野生の力強さを表現した総合公園

【概要】千葉市街地(畜産試験場跡地)に残った自然や地形を生かし、土壌生態系を含めて房総丘陵の自然環境をそっくり移植、生き物の自然の生き方を展示する野外博物館というコンセプトの公園です。敷地内には、東金古道の一部、土気往還が手つかずの状態で作成され、溪流園斜面の巨樹の梢を渡るそよ風の音や野鳥の混群のさえずりは心を和ませてくれます。

【公園の特徴と見所・歴史文化】

生態園：房総半島の自然植性を再現している。

千葉市登戸から東金に至る東金街道の一部、土気往還が公園内を通っており、往時の状態のまま通行可能である。江戸時代は、道の両側に松が植えてあったが、徳川幕府の経済状態悪化に伴い薪の材料として、伐採されてしまった。その後、手入れされないままに、現在は落葉樹の木の葉に覆い隠され、絶好の遊歩道となっている。

【コース紹介】

西口駐車場から彫刻広場に向かう階段の両脇にまっすぐに空に向かって伸び立つ数本の高木が目につく。ラクウショウである。近くには、メタセコイアの木も見られる。生きた化石と称される樹木であり、生物多様性を標榜する青葉の森公園ならではの、樹木の配置なのかと感心する。

① 坂をのぼりつめて、後ろを振り返ると、右手にこんもりとした森が見下ろせる。20年前は幼木がまばらに生えていただけで、市街地を見はるかすことが出来たが、今ではこんもりと茂り、眺望は台無しになってしまったが、

潜在植生が場所を得るとこんなにも茂るものかと植物の生命力の力強さが印象つけられる景観である。

② 西洋庭園を過ぎて、階段を降りるとすぐに生態園の入口である。沼田真先生自筆の表札が掲げられている。生態園に入ると、まずは海浜植性と岩石の標本が集められた海岸モデルである。その先には、クロマツ林・タブノキ林が続く。更に進むと、スダジイ等房総半島に広く生育する常緑照葉樹林が続く。モミ林が仕立てられたあたりは、生態園の中でも高い位置にあり東屋があるので一休みしよう。



- ③ 谷津の地形で多く見られる、北向き斜面が落葉樹林、南向き斜面は照葉樹林という景観が、この生態園の中の林の道でもみることが出来る。探鳥小屋には、フィールドスコープが設置されており、自由に利用可能である。
- ④ 道路の右側に、説明版がはめ込まれた大きな石碑がある。読んでみると、かつては、この地に国立畜産試験場が設置されていたことが理解できる。プラタナスの木が、ここかしこ植えてあるが、飼育していた牛の乳の出が良くなるようにと日除けのために植えられていたのだとか・・・。
- ⑤ 隣には、ヒマラヤスギやイチョウの巨木が植えられている。気候変動を生き抜いた「生きた化石」といわれる樹木達である。
- ⑥ ハンカチノキの反対側に、落葉樹に囲まれたゆかしげな小道が見える。これが土気往還の名残の道である。江戸時代初期には、両側に松の木が植わっていたが、幕府の台所事情の悪化により薪として切り倒されたのだとか、松の木もとんだ災難である。
- ⑦ 溪流園の道の手前を右に向かうと目の前にすらりと高く伸びたポプラの木が池の端に生えている。公園で、もっとも樹高の高いセイヨウハコヤナギである。
- ⑧ 青葉池を過ぎると、登り坂、登り終えると荒久古墳が見えてくる。

青葉の森の公園は、四季折々の楽しさを秘めた公園である。いろんなコースのバリエーションをつくり、折に触れ訪問されれば、新たな発見があなたを待っています。

青葉の森公園散策ルート 数値は写真の番号
 歩行距離：3.5km 累積登り：47m
 ルート 西口駐車場～西洋庭園～生態園～畜産試験場記念碑～梅林～畜産試験場牧草地跡～カワヅ桜・ハンカチノキ～中央広場～昼食～土気往還～溪流園～青葉池～荒久古墳～西口広場
 昼食無しで約2時間コース、途中、中央広場で昼食を摂ると4時間コースとなります。

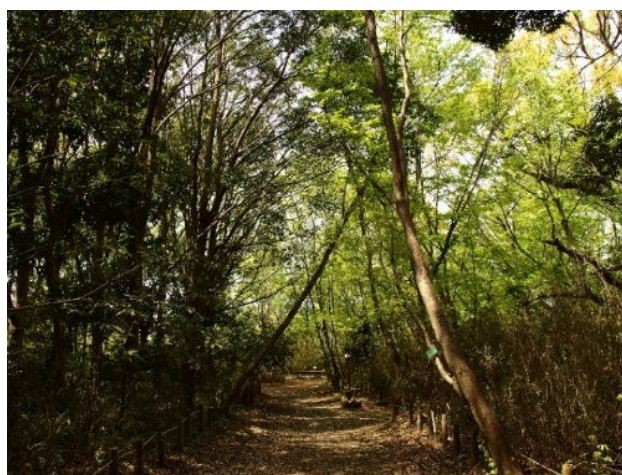
1. 西洋庭園手前 生態園の森を見下ろす



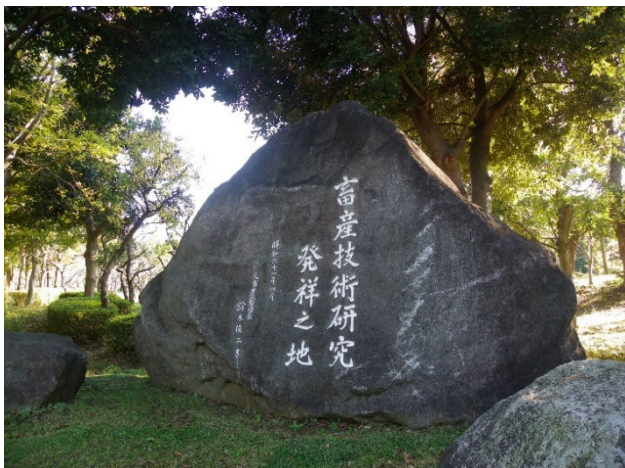
2. 生態園



3. 右側 落葉樹林 左側 照葉樹林



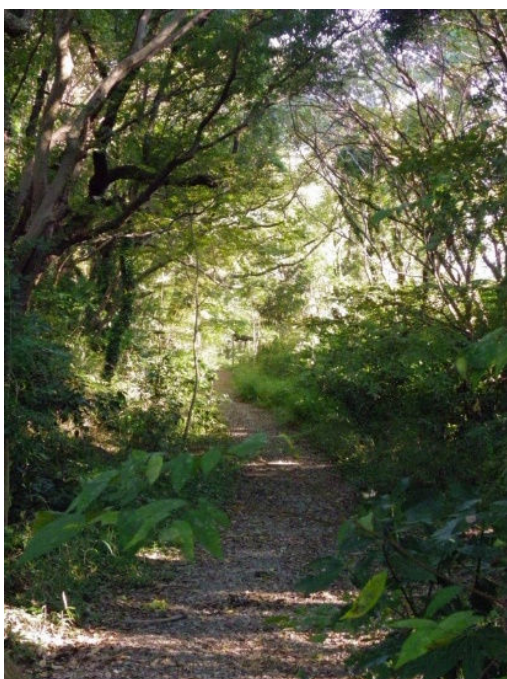
4. 畜産試験場記念碑



5. ヒマラヤスギ



6. 土気往還



本サイトの記事・画像等の無断転載は禁じます。

コースで見られる主な植物等

【木本類】

イチヨウ、メタセコイア、ラクウショウ、コウヤマキ、スダジイ、シラカシ、マテバシイ、タブノキ、ケヤキ、イヌシデ、トチノキ、カツラ、ナンキンハゼ、カロリナポプラ、ハンノキ、アキニレ、ニセアカシア、ヤマボウシ、センダン、イイギリ、マメガキ、トベラ、シャリンバイ、等

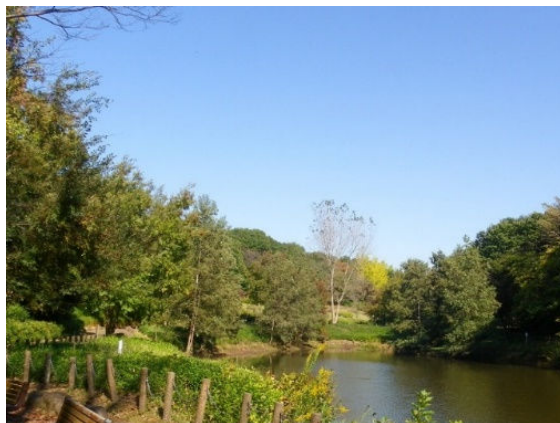
【草本類・シダ類】

ハマヒルガオ、ハマエンドウ、ハマゴウ、ハマニガナ、ヨシ、ヒメガマ、カヤツリグサ科、マヤラン等

【栽培種・逸出種、外来種等】

ウメ 35品種300本 原っぱや里の森を含めると1000本以上。枯山水の日本式庭園はウメの季節は香りで包まれる。

7. 青葉池とセイヨウハコヤナギ



8. 荒久古墳



【一口メモ】

県立中央博物館：房総の自然誌と歴史に関する総合博物館 1989年（平成元年）に開館

常設展示のテーマは、「房総の自然と人間」

初代館長：沼田真千葉大理学部名誉教授

生物多様性センター：博物館内に設置

千葉県の生物多様性に関する情報を一括管理し、生物多様性の保全・再生に関わる調査研究・技術開発、教育普及・現場指導などを行っている